第11回日本語スピーチコンテスト in 庄内 ⑤

昨年11月6日開催
出羽庄内国際村

日本語を話せずに日本で生き残っている高校生の洞察

ロドリゴ カマチョ（メキシコ出身）

みなさん、こんにちは。Rodrigo Camacho Gomezと申しますが、ロイと呼んでください。私はメキシコから来て、ロータリーという団体のおかげで鶴岡東高校に留学しています。まだ短いですけど、日本に住んで3か月のうちに、見たり、やったりしたこともない、新しい経験をして、文化驚愕もたくさんありました。この間にも、いろいろ考えました。分析にしてみると当たり前なことになるかもしれませんが、その考えたことの中で最も考えさせられ、驚かされたことの一つを、このスピーチでお話しします。実は私は最初に国際村に来た時、受付の方から「日本語上手ですね、これを参加してみませんか」と言われて、スピーチコンテストのパンフレットをくれました。その時に私はあまりやる気がなかったのでこのコンテストに参加しないつもりでした。しかし、「日本語上手ですね」という言葉は頭の中で浮かび続けて、これに参加したら勉強になりそうと思いました。そうすると、「豚もおだてりゃ木に登る」ということわざのように参加をしてしまいました。

進む前に、私は言語学者ではないことを明確にしたいと思います。そして、この話やスピーチは自分の考え方であり、日本滞在中に気づいたことだけです。日本に来る前に、現在やっている国際交流をいつかするを目標に、2年間日本語を勉強してひらがなとカタカナを書くと読むことを習いました。漢字はまったく勉強しませんでした。

漢字は要らないと思ったせいか、1から10までの数字の漢字しか学びませんでした。日本ではひらがなとカタカナだけが使われ、漢字は滅多に使われないと本当に信じていました。留学の始まり前に、ほかの仲間の交換留学生は彼らが行く国での言葉の難しさについてすごく心配していました。一方私は超初級の日本語で何とかなるという過信がありました。

本当に甘かった。日本で飛行機を降りたとき、現実が顔を殴りつけました。私は日本語について何も知らず、それを学ぶのはかなりの挑戦になるだろうと気がつきました。

スピーチの話題に戻ると、私は日本で日本語を勉強している間に、日本語のように母国語に独特の文字を使っている人は、当たり前にその文字で単語を考えていることに気づきました。今では、それはかなり明白に思えますし、みなさんもそうかもしれませんが、ここに来る前は、私はそれについて考えたことがありませんでした。

例えば、私がスペイン語で単語を言ったとき、みなさんの頭の中でアルファベットやひらがなかカタカナを使って思い浮かべるでしょう。母国語が日本語なら、ひらがなやカタカナを使って思い浮かべませんか。まあ、私はそれを逆にします。知らない単語を聞いたら、すぐにスペイン語やアルファベットで思い浮かびます。今まで考えたことがありますか。

私にとって興味深いと思われるもう一つのことは、各国、この場合だとメキシコと日本の間にある文化の違いと、その違いはどのように影響するかということです。日常会話では、言葉の語彙（ごい）や文法も話す人によって、話し方が変わるように感じます。

それに加えて、大衆や一般的な文化など、多くの文化的文脈も使用されます。確かに、メキシコで大衆や一般的な文化と見なされているものは、ここでのそれとはまったく異なります。

例えば、本について話しましょう。メキシコの崇拝な本が日本では全然知られていない可能性が高いです。次の本を読んだことがある人は手を挙げてほしいです。（よろしいですか…）「ドン・キホーテ」、「百年の孤独」、「ダンテの神曲」、「孤独の迷宮」。ほとんどの人は知りませんでしたね、その本は全部、メキシコで崇拝な本なんです。逆に、日本の本を読んだことがあるかと聞かれたら、きっと同じ結果になるでしょう。私はそれらを知らないかもしれません。

また実例はコマーシャルです。メキシコとしてよく使われる文句や表現を生み出した有名なコマーシャルが無数にあります。通常これらの表現は文字通りの意味を持たないため、その意味を理解するには、それがどこから来たのかを知る必要があります。きっとここ日本でも同じだと思います。私自身もそういう表現に出くわしたことがありますが、さすがに意味が分かりませんでした。

これは、言語を学ぶために何が本当に必要なのかを自問することにつながります。学ぶのは語彙と文法だけですが、それとも文化についても学ぶ必要があるでしょうか。私の意見はお互いに補い合うので両方を学ばないといけないと考えます。なぜなら、ある言葉の文法を教科書で学んだだけでは、その言語の文化的内容を知らないため、現地人のように話すことができないと思うからです。

ですから、現地人のように聞こえる言語を話すためには、その言葉の習慣、基本的な礼儀、伝統などの文化を身につける必要があると思います。日本にとって、挨拶や敬語は文化の一つですね。言語を習うとき、文化とともに学ぶことはほぼ避けられないでしょう。実は、文化的な背景を習うと言語を学びやすくなります。

今日言ったことを踏まえ、私はこれから日本の文化についてもっともっと身につけて、日本語をペラペラになるように勉強します。そして日本語を勉強しているみなさんも、一緒に頑張りましょう！　ご清聴ありがとうございました。